

2012年11月 原語上演／日本語字幕付

プッチーニトスカ 全3幕 Puccini: TOSCA

佐藤しのぶ、ソフィア国立歌劇場 における《トスカ》 客席の興奮ぶりは最高潮！

岸 純信（オペラ研究家）



2012年6月29日、ソフィア歌劇場の《トスカ》は満員御礼になった。
大歌手を輩出するブルガリアだからこそ、
ファンも常に「新しい声」に期待を寄せてくる。

幕開きでは宙に浮かぶ巨大な十字架が圧倒的。カルターロフ演出が示す「天意の絶対性」の象徴であろう。サンジョルジの指揮は場面の繋ぎがスムーズで、脱獄者の怯えも、時代について行けない堂守の苛立ちも、画家の恋の想いも鮮烈に描き出す。そのさなか、響き渡った呼び声〈マリオ! マリオ!〉に筆者は目を見開いた。

これまで何十回と接した《トスカ》だが、このひと声にここまで「娘らしさ」を感じさせるソプラノはいなかった。原作によるとヴェローナの孤児院で育ったトスカは、デビューから僅か4年でイタリアを制覇した血気盛んな20代の歌姫である。この日の佐藤しのぶは、その女性像に相応しく、実にフレッシュな響きで歌い通していた。舞台をつかつかと歩む姿にはプリマドンナの誇りが漲り、恋人に甘えるくだりには脆い心が滲む。佐藤の強靱な歌いかけと明るい声音の対比は人物に一層の膨らみを与えていた。

次いで激情の第2幕。恋人の命を救うため、トスカはスカルピアに身を任せざるを得なくなる。名アリア〈歌に生き、恋に生き〉では佐藤の引き締まったフレーズがこの日一番の喝采を得た。そして緊張の殺害シーン。男爵は半裸でトスカに迫り、演じるビセル・ゲオルギエフの逞しいボディも生々しさを煽る。しかし、歌姫はナイフを手に突き進むのみ。佐藤のダイナミックな動きと唸りを交えた歌いまわしが場面の凄みを倍増させていた。

そして、大詰め第3幕。未来を疑わない女心を佐藤の冴えた声音が裏打ちする一方で、テノールのマルティン・イリエフの逞しい声は、酷い運命を悟ってか切なく響く。

そして恋人の死を知ったトスカは、最後の一言〈神の御前で!〉を閃光の如く放って姿を消した。

佐藤がカーテンコールに現れた時、客席の興奮ぶりは最高潮に達していた。



ラドスティナ・ニコライエヴァ
(トスカ、サントウツツア)

ソフィアの若手歌手のなかで一躍注目されている存在。同国のソプラノらしく強い重厚な声に加えて柔軟性も兼ね備えているから、《フィガロの結婚》の伯爵夫人を歌うと同時に《アイダ》などのヴェルディ中期作品やプッチーニ他、のヴェリズモでも評価が高い。トスカやサントウツツアは、そのような彼女に打って付けた。



マルティン・イリエフ
(カヴァラドッシ、トゥリッドウ)

押し出しの立派な声は、それもそのはず、ソフィアの重要プロジェクトであるワーグナー《ニーベルングの指環》のヘルデン（英雄）テナー、ジークムントとジークフリートの二役を歌っているのが彼なのだ。バリトンから持ち上げた声だけに中・低音域が充実し、そこに輝かしい高音が乗ってドラマティックの領域では最強だ。



ビセル・ゲオルギエフ
(スカルピア、ジャンニ・スキッキ)

バリトンの華、知的な敵役に扮して適性を発揮する個性派。ヴェルディのほかフランス、ドイツに及ぶ幅広いレパートリーを誇り、ワーグナーの《指環》では狡智に長けたアルベリヒを演じている。勿論スカルピアやジャンニ・スキッキのようなアクの強い役柄でも定評があるところ。ヨーロッパを越えた海外での活動も多い。

ソフィア国立歌劇場を彩る歌手の魅力 山崎 睦 (音楽ジャーナリスト)



ウラディーミル・サムソフ
(ジャンニ・スキッキ)

専属歌手として所属するマリンスキー劇場（サンクトペテルブルグ）は男声低音歌手の宝庫だが、競争の厳しさを表に出さない、おおらかな明るさが持ち味だ。彼のスキッキは、だから包容力のある人間味がにじみ出る。モーツァルト、ロッシーニ、ベルカント物、さらにロシアのレパートリーと、音楽的に多様な柔軟性を持つ。



佐藤しのぶ
(トスカ)

プリマ中のプリマの役どころとして知られるトスカに扮した佐藤の堂々たる存在感は、わが国の代表的オペラ歌手として第一線に立つ続けた彼女の、28年間のキャリアに裏付けられている。今回のカルターロフ演出では息つく暇もないほどの強い緊張感が舞台を支配し、女優としての彼女の魅力が、いっそう引き立てられている。



小林沙羅
(ラウレッタ)

歌手としてのみならず、視覚的にも清純さと利発さを兼ね備えたラウレッタ役にピッタリの時期にある小林だけに、まさに適役！ 発声と舞台を駆けめぐる彼女が、じつに魅力的だ。この役の成功を受けて、ソフィア歌劇場は急速《愛の妙薬》の主役、アディーナをオファーしたため、小林は同地で連続出演を実現させた。



マスカーニ カヴァレリア・ルスティカーナ

<2011 年新演出>

演出：プラーメン・カルターロフ
指揮：アレッサンドロ・サンジョルジ

予定される主なキャスト
サントゥツァ：ラドスティーナ・ニコラエヴァ (11/11,15)
ゲルガーナ・リュスコヴァ (11/4)
トゥリッドゥ：マルティン・イリエフ (11/15)
コスタディン・アンドレーエフ (11/4)
ダニエル・ダミアノフ (11/11)
アルフィオ：プラーメン・ディミトロフ (11/4, 15)
ニコラ・ミハイロヴィッチ (11/11)
ルチア：ルミャーナ・ペトロヴァ



プッチーニ ジャンニ・スキッキ

<2011 年新演出>

演出：プラーメン・カルターロフ
指揮：ヴェリザル・ゲンチェフ

予定される主なキャスト
ジャンニ・スキッキ：
ウラディーミル・サムソノフ (11/4,15)
ビセル・ゲオルギエフ (11/11)
ラウレッタ：小林沙羅
リヌッチョ：ダニエル・オストレツォフ

Puccini: GIANNI SCHICCHI

“カヴァレリア・ルスティカーナ”と“ジャンニ・スキッキ”

欧州であまり見ることのないこの二作のカップリングは、意図的なものであると演出家カルターロフは語る。もともと“道化師”と“ジャンニ・スキッキ”を組み合わせることではじめた劇場企画ながら、“ジャンニ・スキッキ”を基調として“カヴァレリア”を加えるプログラムが最適であろうと日本公演を見据えてのプログラムとなった。カルターロフの考える“カヴァレリア”は音楽の流麗さもさることながらサントゥツァの性格描写がトスカ同様に純朴かつ信心深いものであり、それが礼節ある日本人のここには必ず響くであろうと確信していること。舞台のシチリアをどのように表現すべきか、甘くそして辛い惨劇をありのままに伝えられるか模索してきた。簡素な舞台ながらいかにも南イタリアらしい描写を舞台上に施しているだけではなく舞台を動く人間にまでシチリアらしさを注ぎ込んでいる。また“ジャンニ・スキッキ”は教育的な試みとしてソフィアで成功した作品。カルターロフの友人であり、同地出身の名ソプラノ、ライナ・カバイヴァンスカの進言もありこのオペラを取り上げてきたが、イタリア語を積み掛けるように操らなければこの作品においてコミカルな表現をブルガリアの聴衆に伝えることに成功している。言語の壁を超える第一段階を終えたことで日本に運びさらなる挑戦に踏みだす。回転する大富豪プオーゾ・ドナーティの邸宅が人々の掛け合いや自在な動きに応じてあたかも生きているように見えるところが興味深い。ソフィア歌劇場の舞台にはルネッサンス初期のフィレンツェが漂い、自ずと劇の中に引きこまれてしまう。



演出家
カルターロフ

“トスカ”

ソフィアの“トスカ”は一見、アメリカの暗黒時代（シカゴのアル・カポネ期）を感じさせるも、必ずしもそのように限定されたものではなく、衣装には時代的な多様性が求められ、観る人の感じるまま、たとえばナポレオンの時代であったり、プッチーニの時代にそぐったり、あるいは現代にあてはまると言っても差支えない設定になっている。注目すべき点は、すべての幕を通して十字架が舞台にあらわれ、教会、宮殿、そしてお城とそれぞれの幕に暗示を与えることになる。教会の十字架は当然ながら、神に支配されているにもかかわらず横槍の力が均衡を蝕んでいく。頭上の十字架が床面にその影を写しその十字の狭間で話が展開していく。大理石を床素材として十字架を反射させている一幕では、スカルビアのとても大きく大きな権力が表現されることになる。上下の大きな十字架の中にスカルビアが挟まれるようなかたちになるが、それは教会の権力を手中に収めている状況を描写しているのである。二幕、ファルネーゼ宮殿の十字架はあまり目立たずに、しかし、木目の床に映し出される。この木目は、スカルビアの個人趣味を映し、また、物事を



Puccini: TOSCA

プッチーニ トスカ

<2011 年新演出>

演出：プラーメン・カルターロフ
指揮：アレッサンドロ・サンジョルジ

予定される主なキャスト
トスカ：佐藤しのぶ (11/3,17)
ラドスティーナ・ニコラエヴァ (11/18)
マリオ・カヴァラドッシ：マルティン・イリエフ (11/3,17)
コスタディン・アンドレーエフ (11/18)
スカルビア男爵：ビセル・ゲオルギエフ (11/17)
ニコラ・ミハイロヴィッチ (11/18)

自在に操る柔軟さをも形容している。カヴァラドッシに拷問を受け、そのカヴァラドッシの勝利の叫びに激情するものこの木目の十字の間であり、不意を突かれてトスカの刃に朽ちてしまうのもやはり同じ木目の間なのである。一方、三幕のサンタンジェロ城は、そのお城という背景があり石（大理石のような上質なものではなく）の床に十字を写し出すことになるが、何よりもこの石は“死”を意味している。それは、もうこの世にいない権力スカルビアの死であり、迫りくるカヴァラドッシの死でもあり、絶望を悟り自らを投げだすトスカの死なのである。演出家カルターロフの“トスカ”は、すべてのテーマをスカルビアにおく。一幕の絶対権力、二幕の傲慢と欲情、三幕のすでに存在しないまでも浮遊する周到な残忍さ。スカルビアをどのように扱うかがこのオペラのもっとも難しいところであるとカルターロフは語る。カルターロフの掲げる舞台理念の一つに、二面性の重視がある。スカルビアはとにかく、トスカ、カヴァラドッシにおいてもすべて二つの人格が絡み合いながら物語は構成されていくという。それは静と動であったり、激情と温和、あるいは歓喜と絶望のように対照的な感情をいかにして舞台上で表現するかにより聴衆に与える緊迫感と安堵とのバランスを図っていくのである。ヴェリズモの流れをくむ“トスカ”であれば当然のこと。しかし、どのような時においても音楽の本質を変形させることは好ましくないと演出家は語る。それを生み育んだ作曲家を尊重することを考えれば音楽の中に余計な操作は加えるべきでないのだという。“トスカ”についていえば、すべては三幕最終部でお城の頂から放たれた真つ赤なスカーフに象徴されている。カルターロフのこの演出は、スカーフをトスカの分身として扱うとともに、その赤色に委ねられる愛、熱情、血、希望を表現している。スカルビアの独裁とエゴがトスカのこの赤色を打ち砕き、仕舞いには奈落の底に突き落としていく。

原語上演／日本語字幕付

★ATTENTION

これらの情報は2012年8月25日現在の予定です。病気、怪我、その他の事情で変更になる場合がございます。最終的な出演者は当日発表とさせていただきます。一旦お求めいただきましたチケットは、公演中止の場合を除きキャンセル・公演日の振替等をお受けいたしかねますので、あらかじめご了承下さい。ご承諾をいただけない場合は、当日券をご利用下さい。（前売りで売り切れとなった場合は当日券の販売はございません。）

演目	公演日 2012年	DATE	料金(税込) PRICES
マスカーニ: カヴァレリア・ルスティカーナ Mascagni: CAVALLERIA RUSTICANA プッチーニ: ジャンニ・スキッキ Puccini: GIANNI SCHICCHI 上演時間：2時間45分(予定)／休憩含む	11月15日(木) 18:30 東京文化会館 Pコード：163-861 Lコード：31302	November 15 (Thur) 18:30 Tokyo Bunka Kaikan	S¥22,000 A¥19,000 B¥16,000 C¥13,000 D¥10,000 E¥7,000 F¥4,000 売切 (夢倶楽部会員) S¥21,000 A¥18,000 B¥15,000 C¥12,000 D¥9,000 E¥6,300 F¥3,600 売切
	11月4日(日) 15:00 横須賀芸術劇場 Pコード：164-947 Lコード：39893	November 4 (Sun) 15:00 Yokosuka Arts Theatre	S¥16,000 A¥13,000 B¥9,000 C¥6,000 (夢倶楽部会員) S¥15,000 A¥12,000 B¥8,100 C¥5,400
	11月11日(日) 17:00 千葉県文化会館 Pコード：164-948 Lコード：31307	November 11 (Sun) 17:00 Chiba Prefectural Culture Hall	S¥15,000 A¥11,000 B¥8,000 C¥5,000 (夢倶楽部会員) S¥14,000 A¥10,000 B¥7,200 C¥4,500
プッチーニ:トスカ Puccini: TOSCA 上演時間：2時間40分(予定)／休憩含む	11月17日(土) 14:00 11月18日(日) 14:00 東京文化会館 Pコード：163-861 Lコード：31303	November 17 (Sat) 14:00 Tokyo Bunka Kaikan November 18 (Sun) 14:00 Tokyo Bunka Kaikan	S¥22,000 A¥19,000 B¥16,000 C¥13,000 D¥10,000 E¥7,000 F¥4,000 売切 (夢倶楽部会員) S¥21,000 A¥18,000 B¥15,000 C¥12,000 D¥9,000 E¥6,300 F¥3,600 売切
	11月3日(土) 15:00 川口リリア・メインホール Pコード：164-946 Lコード：39370	November 3 (Sat) 15:00 Kawaguchi LILIA	S¥16,000 A¥13,000 B¥10,000 C¥7,000 D¥4,000 (夢倶楽部会員) S¥15,000 A¥12,000 B¥9,000 C¥6,300 D¥3,600

【2012年日本公演スケジュール】

A：「トスカ」	B：「カヴァレリア・ルスティカーナ」「ジャンニ・スキッキ」
A 11月3日(土)	川口総合文化センター・リリア <問合> 048-254-9900 ◎
B 11月4日(日)	よこすか芸術劇場 <問合> 046-823-9999 ◇
B 11月7日(水)	富山オーバードホール <問合> 076-445-5511 ◇
B 11月8日(木)	愛知県芸術劇場 大ホール <問合> 052-957-3333 ◎
A 11月9日(金)	富士市ロゼシアター <問合> 0545-60-2500 ◎
B 11月10日(土)	兵庫県立芸術文化センター <問合> 0798-68-0255 ◇
B 11月11日(日)	千葉県文化会館 <問合> 043-222-0077 ◇
A 11月13日(火)	茨城県立県民文化センター <問合> 029-305-0161 ◎
B 11月14日(水)	盛岡市民文化ホール <問合> 019-621-5100 ◇
B 11月15日(木)	東京文化会館 <問合> 03-5774-3040 ◇
A 11月17日(土)	東京文化会館 <問合> 03-5774-3040 ◎
A 11月18日(日)	東京文化会館 <問合> 03-5774-3040 ◇
B 11月19日(月)	アクロス福岡シンフォニーホール <問合> 092-725-9112 ◇

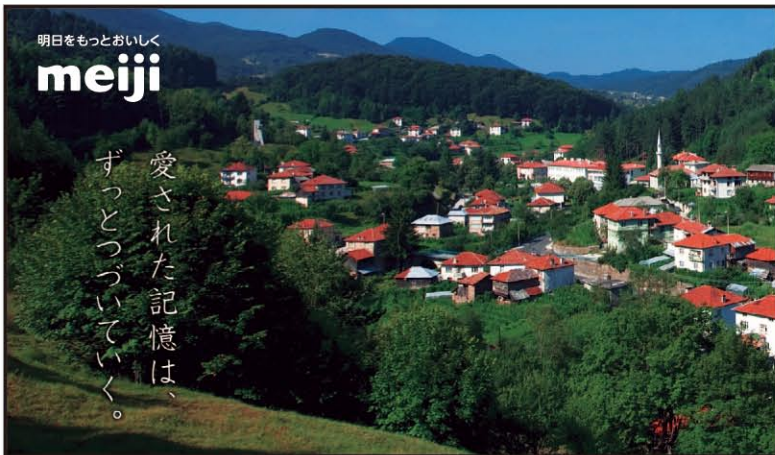
主催：ジャパン・アーツ/朝日新聞社
 (公財)川口総合文化センター(11/3)
 (公財)横須賀芸術文化財団(11/4)
 (公財)千葉県文化振興財団(11/11)/Bay fm(11/11)
 特別協賛：株式会社 明治 後援：ブルガリア大使館

チケットのお申込み

ジャパン・アーツぴあ (03)5774-3040 www.japanarts.co.jp/

☆ジャパン・アーツぴあではクレジットカード精算が可能。

チケットぴあ pia.jp/t 0570-02-9999
 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650
 イープラス eplus.jp
 ローソンチケット 0570-000-407



特定保健用食品

明治ブルガリアヨーグルト LB81

株式会社 明治

【次のことをあらかじめご通知の上、チケットをお求め下さいませ】

- ① やむを得ない事情で出演者等が変更になる場合がございます。最終的な出演者は当日発表とさせていただきます。公演中止を除き、お買い求めいただきましたチケットの、キャンセル・変更等はできません。
- ② いかなる場合も再発券はできません。紛失等には十分ご注意ください。
- ③ 開演時間に遅れますと、長時間ご入場をお待ちいただくことになります。時間には余裕を持ってお越し下さい。
- ④ ご入場には1人1枚チケットが必要です。また未就学児の入場はご遠慮下さい。
- ⑤ 本公演は全席指定です。お持ちのチケット以外の座席ではご覧いただけません。
- ⑥ 場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は、固くお断りいたします。
- ⑦ 本公演の字幕は舞台の両脇に掲出されます。一部の席で見えづらい場合がございますが、あらかじめご了承下さい。
- ⑧ ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。
- ⑨ お席によっては舞台が見切れる場合がございます。